

認定NPO法人(特定非営利活動法人)

活動紹介

NPOに寄附することは
その活動に加わること。
地域を変える
大切な行いです。



認定NPOに寄附すると
確定申告で税金が戻る
税制優遇もある
らしいですよ

きのこ

TAKE
FREE

伝えたい!がんばる宮城のNPO



私たちのまちには、
どんなNPOが
あるんだろう



NPOって
どんな活動を
しているの



私たちが寄附したお金は、
何に役立っているの

宮城県内で地域課題の解決や復興・被災者支援に取り組む 認定NPO法人(19団体)をご紹介します

「皆さんが住む地域の課題は何ですか？」
「えっ？自分の町内には無いと思うけど・・・」

そうでしょうか・・・課題を抱えている人は、
周囲から気づかれにくい傾向があるため、なかなか表に出ない、見えないのかもしれません。

例えば、孤立する高齢者、貧困家庭の子ども、
虐待を受ける女性、障がいのある子どもの居場所
など、「生きる」ことそのものに課題を抱えている
人達が少なからず存在します。

また、都市部でも高齢化が進み、労働人口の不足から、
それにかかわる人手不足が慢性化しているという課題もあります。

もし、このような課題に気づいた時、皆さんは
どのように思いますか？

「支援が必要ならばすべて行政がしてくれる」の
でしょうか。確かに制度や施策が進み、課題が解決
された分野もありますが、まだまだ課題は山積
しています。

そのような中、課題を抱える人々に寄り添い、
その人らしく生きていくことを目指し、活動して
いるNPOがあります。行政からお金をもらい活
動している団体ではありません。自ら課題を見
つけ、自らの責任と信念のもとに活動している団体
です。

とても大事な、とても重要な活動ですが、市民
の皆さんからの支持や支援なしには、長期にわ
たって活動を継続することができません。

内閣府が平成26年度に実施した「市民の社会貢
献に関する実態調査」によると、寄附を行った理
由としては、「社会の役に立ちたいと思ったから」
(65.9%)が最も多くなっています。

一方で、寄附を妨げる理由としては、「寄附を
しても、実際に役に立っていると思えない」や「寄
附先の団体・NPO等に対する不信感があり、信頼
度に欠ける」という回答が3～4割に上っています。

NPOに対する信頼を獲得することが寄附の前
提です。その点、宮城県や仙台市が活動実態を確
認し、税の優遇を認めた認定NPO法人は、信頼
が高い団体と言えます。平成28年2月末現在、宮
城県内には19の認定NPO法人(※)があります。
この認定NPO法人制度は、認定NPO法人に寄附
をした場合、寄附者が翌年に確定申告をすると、
その額に応じて税金が戻ってくるという仕組みに
なっています。

これから県内のすべての認定NPO法人をご紹
介しますので、皆さんが応援したい団体を選んで、
地域を支える活動を継続できるよう、ご寄附によ
る応援者となってくださることを期待しています！

(※)認定NPO法人には、仮認定NPO法人を含みます。

認定NPO法人制度とは…

- 「運営組織及び事業活動が適正であり公益の増進に資する」と所轄庁から認定を受けたNPO法人
- 様々な優遇措置で、NPOの活動支援を行う制度

寄附金に対する特例措置

- ◆個人が認定・仮認定NPO法人に寄附した場合(確定申告)
 - (1)寄附金控除(所得控除)
特定寄附金の額の合計金額—2,000円=寄附金控除額
 - (2)認定NPO法人寄附金特別控除(税額控除)
(認定NPO法人に対する寄附金額の合計額—2,000円)×40%=税額控除額
- ◆法人が認定・仮認定NPO法人に寄附した場合
一般寄附金の損金算入限度額の枠が拡大



少子高齢化や人口減少等に伴う様々な課題に対応した新しいサービスの担い手として、また、本県に未曾有の被害をもたらした東日本大震災からの復興の担い手として、NPOにはこれまで以上に大きな期待が寄せられています。

こうした中、宮城県では、今年度改定した民間非営利活動促進基本計画において、「認定NPO法人への移行促進」や「寄附促進の仕組みづくり」等を新たにに取り組む事項として位置付け、NPOの自立と更なる活動の活性化を図ることとしておりますが、それを確実なものとする上で、県民の皆様や企業等の御理解と御支援が不可欠となっています。

ここでは、NPO活動の意義や重要性を知っていただくため、県内にある約800のNPO法人のうち、組織運営や経理処理が適正であるとともに、広く市民からの支援を受けているという基準を満たし、より信頼性の高い法人として宮城県又は仙台市の認定を受けた19の認定・仮認定NPO法人を紹介しています。

いずれもNPO法人のトップランナーとして様々な分野においてかけがえのない活動を展開されている団体です。御覧になられた方がNPOに対する理解をより一層深められ、応援者になっていただくとともに、自らパートナーとして参画していただくことを期待しています。

平成28年3月

宮城県知事 村 井 嘉 浩

理解とサポート、2つの力が必要です

認定NPO法人スペシャルオリンピックス日本・宮城

私達「スペシャルオリンピックス日本・宮城」は、宮城県内で知的障がいのある人達(アスリート)に継続的なスポーツプログラムを提供している団体です。

知的障がいのある人にスポーツ活動を提供する目的は、単に運動能力の向上を目指すものではありません。“スポーツ”を通して社会ルールを学び、自立と社会参加のきっかけづくりを目的にしています。

年間を通して活動するスポーツプログラムは、8回以上の練習と競技会の開催を基本としています。現在宮城県内(仙台・石巻・気仙沼)で実施しているプログラムは14競技あり、2年に一度開催される夏季、冬季の全国大会、世界大会への選手団派遣費用として合わせると、およそ250万円の経費が必要です。

主に各スポーツプログラムを実施する際の会場費、交通費をはじめ、大会に出場するアスリート、コーチボランティアの派遣費用に支出しています。

この活動を広く知っていたき、多様な人々が尊重し、共生していく社会の実現のため活動へのご協力・ご寄付をお願いします。



共生できる社会の構築を目指して

認定NPO法人Switch

Switchは、ここに不調を抱えた思春期、青年期の若者の「はたらく」「まなぶ」をサポートすることを目的に、2011年、仙台市で活動を始めました。仙台地区では、障害福祉サービス事業所として「スイッチ・センダイ」をスタート。福祉の枠での心に不調を抱えた方のサポートに取り組むとともに、「仙台NOTE」にて、枠にとらわれない幅広い就労サポート事業を展開しています。

2013年からは、石巻市にて、被災地特有の就労課題に対応するため、「石巻NOTE」をスタート、2015年にスタートした障害福祉サービス事業所「スイッチ・イシノマキ」とともに、被災地での幅広い対象者へのサポートを展開しています。

現在若年者の「はたらく」を取り巻く環境は大きく変化しています。特に東北では、今後日本全国で発生する課題が前倒しで発生しており、現在の被災地での取り組みが今後の全国での就労支援の方向性を定めることになるとも言われています。

そこで、私達は、「多様な働き方」のひとつとして、中間的就労支援を通して、共生できる社会の構築を目指しております。

これからの東北を担う若者達が次の一步を踏み出し、その未来がより実りあるものになるよう、私達の活動へご理解、ご協力をお願いいたします。



「生きる意味、いのちの大切さ」を伝える

認定NPO法人地球のステージ

世界とのつながりを感じ、国際理解の機会を提供すること、そして世界の紛争・貧困・災害に直面する人々への支援を行いながら、世界の平和・平等に理解ある人、行動できる人を増やしていきたい、という想いで活動しています。

東ティモールでは、山間の村々で取り組んでいる「妊産婦・新生児死亡率削減プロジェクト」の一環として、妊産婦の適切な健診、安全な出産、新生児への適切なケアや、医療過疎地の住民に対する医療サービスの提供を行っています。

皆様のご寄付は、薬剤の確保や住民助産師育成に関する費用として、東ティモールの医療改善に役立ちます。また、パレスチナで、封鎖された環境で暮らす子ども達へ行っている心の安定＝平和を目的とした心理社会的ケアの活動を支えるとともに、子ども達を導く指導者の養成費用にも活用させていただきます。

東日本大震災の被災・津波から学んだことを、地元の方々が語り部や案内人として発信し「生きる意味、いのちの大切さ」を伝える取り組みにも力を入れており、被災した人々が語れる場所「関上の記憶」を拠点とした活動をこれからも続けていきます。



住み慣れた地域で誰もが自立した生活を送るために

認定NPO法人さわおとの森

私達が活動する利府町や近郊の市町村には、平成18年以前「障がい児のサービス」を行う団体・事業所がありませんでした。仙台市では「障がい児の放課後ケア」を行っていましたが、仙台市以外の児童は利用できず、仙台市外の障がい児本人や家族は仙台市の事業を指をくわえ見ている状況でした。

そこで、平成18年に障がい児者が住み慣れた地域で暮らし続けるため、利府町で「未就学の母子通園や障がい児の放課後ケア、障がい児・者のショートステイなどの多機能サービス」を行う団体を設立しました。学校と自宅の往復だけでは身に付かない社会性を、他者との関わりから得て成長できるようにという思いをもって、活動を続けています。

利府町やその近隣地域では、重い障がい者の日中の活動場所も不足しており、皆様から、増築工事費と備品購入などの寄付を募り、平成22年に「生活介護わのみ」を立ち上げました。現在事業所には約100名程度の方が様々なサービスを利用しています。

今後は、障がい者の生活の場であるグループホームの立ち上げを考えています。マイノリティである障がい児者が、安心して快適な活動・生活拠点を維持できるよう、今後とも支援・ご協力のほどお願いいたします。



市民が一步踏み出すきっかけを

認定NPO法人杜の伝言板ゆるる

私達は、宮城県を中心にNPOやボランティアに関わる情報の収集・発信を通じて、NPOやボランティア活動団体が活動しやすく、地域の皆さんがボランティアに参加しやすい環境づくりを進めている団体です。

1997年、宮城県内で日々奔走しているNPOやボランティア活動団体、地域にある課題を取り上げ、市民の皆さんが市民活動に興味を持ち一步踏み出すきっかけにしてほしいとボランティア・市民活動の情報誌「月刊杜の伝言板ゆるる」(以下、月刊ゆるる)を創刊。19年間毎月欠かさず発行してきました。今までに「ボランティア申込みがあった」、「イベントに参加してくれた」という団体からの声、「●月号の団体をおしえてほしい」といった問合せをいただき、活動へ参加するきっかけを誌面で提供してきました。

月刊ゆるるは、紙媒体・フリーペーパーでの発行を続けています。紙媒体なら誰でも手に取って読むことができるという点から、「紙」にこだわり、発行を続けてきました。

しかし、紙で発行するということは必然的にデザイン、印刷、発送などの経費がかかり、毎月約30万円が必要です。発行は、自主財源や寄付金に支えられてきましたが、自主財源だけでは賄いきれない部分もあります。

これからも、「月刊ゆるる」を通し、様々な宮城県内の市民活動に関する情報を発信していきます。ぜひ、皆様のお力添えをお願いいたします。



今求められているニーズに応える

認定NPO法人ばざーる太白社会事業センター

ばざーる太白社会事業センター(略称ビートスイッチ)は、障がい者及び高齢者・児童が、地域で分け隔てのない生活ができる幅広い環境づくりを目指し、地域に密着した活動を展開しています。

主な活動は、仙台市太白区にある地域サロン「クラブハウス恐竜やま」の運営、併設する「希望の星」での視覚障がい者就労継続支援B型事業、仙台市青葉区の「クラブハウス梅田クラブ」の運営、高次脳機能障がいを持つ人々のサポート、IT支援、自閉症支援です。

平成17年法人化からこれまで、会員やボランティア、利用者とそのご家族など、皆様のサポートとご寄付という応援をいただき、日々変化していく利用者のニーズに寄り添い多様に展開してきました。

本会の活動や障がいについて知りたい方、興味関心がある方など、どなたでも気兼ねなく活動にご参加いただけます。



課題を抱えた少年達の心のよりどころ

認定NPO法人ロージーベル

非行・虐待・引きこもりなどの様々な課題を抱え、帰る場所のない少年を受け入れる、自立更生に向けた支援施設「少年の家」を運営しています。「少年の家」の存在を発信していくことで、相談できる場所、保護してくれる場所があること、子ども達や必要な人達に伝えていくことも大切な役割と考えています。

また、時代とともに変化する子ども達を取り巻く課題に対し、NPOが市民・企業・行政などと連携し、柔軟に対応できる社会にしていこうと目指して、支援の現状を周知するための講演会や、子どもの人権・心理・発達障がい・更生などの支援に必要な、知識・技能の習得を図るボランティア養成講座など、様々な活動に取り組んでいます。

「少年の家」の運営には、子ども達の生活を支える費用として、年間500万円前後がかかります。罪を犯すことは、決して許されることではありません。でも、彼らも被害者だとしたら、懸命に助けを求めているとしたら、必死の思いで立ち直ろうとしているとしたら…。

私達は少年達の心の声に耳を傾け、更生を援助し、健全育成を図る活動を続けていきます。皆様からの温かいご支援をお願いいたします。



赤ちゃんから高齢者まで、 支え合いながら安心して暮らせる「まちづくり」を

認定NPO法人あかねグループ

34年前、主婦が集まり誕生したあかねグループは、「高齢になっても住み慣れた家で生涯暮らせる福祉のまちづくり」をテーマに活動してきました。地域のニーズに気づいて行動をおこし、「自分が高齢になったらこんなサービスがほしい」という変わらぬ思いで続けている配食・訪問介護・居宅介護支援のサービス事業、ファミリーサポート・サロンなど支えあいの活動は、地域福祉として根づいています。

私達は「ふれあい会食」、「ふれあいサロン」などの開催で地域の人と人を結び元気を分かち合う活動や、料理教室・講座で「健康な在宅の暮らしに役立つ知恵」を伝える活動をしています。

しかし何か新しい活動を始めたいと思っても、担い手の確保、人材育成の課題が立ちふさがります。

超高齢社会に向けて、元気な高齢者が市民活動に関わり地域を支えていかなければならない時代。今こそ多くの市民の皆さんに会員やボランティアという担い手として活動していただきたい。また寄付者として支援していただきたい。

それによって元気高齢者がそのパワーを地域に還元でき、若い世代の活躍を力強く支えていける、そう信じています。



「あったらいいな」のサービスづくりから、 「共にささえる人の輪づくり」にむけて

認定NPO法人グループゆう

私達グループゆうは、どんなハンディキャップを持っても、地域で安心して住むことのできる、共生の地域をめざし「あったらいいな」と思うサービスを創ってきました。

1995年から20年の取り組みで、幼年期の親子通園から学童の放課後等デイサービス、成人の就労支援、そして高齢者や障がい者への配食サービスやホームヘルプを実施し、地域での暮らしを継続するためのサービスの選択肢を一つずつ増やしてきました。しかしニーズはあるものの、現制度では実施できない事業がたくさんあります。

公的制度がますます厳しくなっていく現状のなかで、利用者主体のサービスの開拓がますます求められます。グループゆうはこれから、地域で暮らす高齢者の“生きがいとしてのボランティア活動の場”や“仕事の場”、“集いの場”を地域に作っていきます。また、就労している障がい者のアフターファイブの活動支援、そして子どもからお年寄りまでが笑顔で食事を楽しむことのできる“地域のキッチン”を創りたいと思います。

どうぞ、ご自身の得意分野を活かして、私達の活動に参加してください！また、寄付によるご支援・ご参加も歓迎いたします。



震災孤児の健全育成を見守る息の長い支援活動

認定NPO法人JETO (ジェット) みやぎ

東日本大震災で両親を失った、宮城県在住の孤児の支援活動に取り組んでいます。子ども達が20歳になるまで、生活・教育支援金の給付をはじめ、就学・留学支援、心のケアなどを行っています。

2011年度から、孤児達一人ひとりに毎年10万円以上を生活・教育支援金として支給し、2014年度には子ども達76名一人あたり15万円の支援金を給付しました。

この活動は、子ども達全員が20歳になるまで続く、息の長い支援となります。そのため、震災の風化に影響されることなく、信頼のおける安定した支援を続けるため「認定NPO法人」を取得しました。

震災から5年が経過し、孤児も将来の夢を語れるようになってきましたが、一方で、保護者が祖父母という孤児も多く、進路の相談に答えられず、不安の声もあります。

さらに、高齢による「病」や自立の難しい年齢の孫(孤児)を残しての「死」という現実も問題になっており、今後「顔の見える」支援、地域社会全体で支えていく体制が、さらに必要だと感じています。

これからも震災孤児の健全な育成を見守りながら活動を続けていきます。これから社会を担っていく、地元の子供達への温かいご寄付をお願いいたします。



遊びを通して「生きる力」を子ども達に！

認定NPO法人冒険あそび場-せんだい・みやぎネットワーク

「冒険あそび場」は、「自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーに、子ども達が「遊び」を通して生きる力を育む場です。「あそぶ」、「つなぐ」、「そだつ」をテーマに、子どもの声ははずむ豊かな地域づくりに取り組んでいます。

東日本大震災発生後は、大きく環境が変わってしまった被災地域において、子どもの心のケアやコミュニティづくりにも資する遊び場づくりに力を入れています。

子どもが子ども時代に思いっきり遊び、そこで人や自然と関わりながら、生きていくうえで様々な経験ができる大切な「遊び」が、生活の変化によって不足している現状があります。

遊びを通して人が出会い、地域とのつながりから魅力を再発見し、地域も元気になる体験の場をつくっていくためには、多くの地域の大人の力が必要です。

私達と一緒に、これからを担う子ども達のための「冒険あそび場」をつくりませんか。

実際に、冒険あそび場で子ども達を見守るボランティアとして、あそび場に足を運ばないけれど応援したい・・・そんな時はぜひ会員として私達の活動を応援してください。



「あったらいいな」を叶え、未来を創ろう

認定NPO法人みやぎ発達障害サポートネット

私達は、発達障害のある人が安心して暮らせる社会づくりを目指し活動しています。

発達障害は、しつけや家庭の問題でも、本人が悪いわけでもありません。現在は、障害の特性等から、制度の狭間におかれていることが多くあり、正しい支援が受けられず重篤なケースになる場合もあります。

そこで、人との関係性を大切にし、自己存在感や自己肯定感を育み、一人ひとりの自己実現を目指し、療育事業（個別・小グループ活動）を独自に実施しています。特に、小グループ活動は全国的にも実践例は少なく、公的機関では皆無の状況です。また、この事業は、国等からの補助金等はなく、当法人の運営や保護者の経済的な影響は大きくなっています。

いずれ子ども達は、成人となり就労と向き合います。私達は課題解決を行うため、「自分を語り、コミュニケーションを取れる当事者」「発達障害を理解する市民」「アドボカシーできる職員」について計画的に取り組む必要があり、平成27年に中期計画と行動プランを策定しました。それぞれの立場の市民がお互いに歩み寄り、理解を深めるという誰もが安心して暮らせる社会を目指し、活動をしています。市民の皆様のご理解・ご協力をお願いします。



私達一人ひとりが地域づくりに参加する社会を目指して

認定NPO法人地星社

私達地星社は、社会をよりよくする活動を行っている人や組織を支援し、増やしていく活動をしている中間支援団体です。こうした活動によって、私達一人ひとりが地域づくり・社会づくりに関わっていく社会の実現を目指しています。

地星社では現在、被災地で活動する復興支援団体を訪問して、震災後からこれまでの活動や運営資金の変遷についてお伺いする活動を行っています。また、団体が抱えている問題によって組織運営についての相談支援をしたり、その後も継続的に対応することもあります。

震災からもうすぐ5年を迎え、復興支援関係の助成金・補助金も減少してきています。これまでそうした資金を頼りにしてきた団体も多いですから、NPOによる復興支援活動も大きな転換点に差し掛かっているといえるでしょう。復興支援団体にこれから必要となる支援の在り方を探り、それを行政や中間支援団体、助成財団等と共有できるようにするのがこの活動の目的です。

地味な活動ではありますが、応援していただければ幸いです。



障害のある人もない人も共に働く場を

仮認定NPO法人麦の会

麦の会の活動の中心は、「コッペ」の運営です。コッペは、誰もが共に働ける場をつくろうと1988年12月開業しました。福祉という看板はあえて掲げず、「普通のパン屋さんにたまたま障害のある人も一緒に働いている」、「障害に甘えることなく一般に流通できる商品をつくる」、そんなお店を目指しやってきました。障害者が差別される社会は、能率が最優先される社会。添加物や農薬が使用されるのも、能率が最優先される社会だから。そんな生き方を見直したい、という思いもあります。

現在、仕事を通して一人ひとりが少しずつ成長してきています。活動を継続してきたことで、地域の皆さんにも認められ、コッペに通う障害当事者の姿も当たり前前の風景として、街に根付いてきています。

創業から28年。多くの設備・機器が更新の時期を迎えています。これまでも助成金や寄付をお願いしてきましたが、まだまだ足りないのが現状です。古くなってきた設備・機器を更新し、生産力をあげ、より一層パン・クッキーの売上を伸ばすことで、障害当事者の給料をあげたい。そのことにより、自立に向けた後押しをし、障害者も地域の中で共に生きるという社会づくりを応援してください。



「減災活動」で安全安心な街づくり

認定NPO法人みやぎ災害救援ボランティアセンター

私達は阪神淡路大震災の被災者支援活動を契機に「被災者支援」を目的としたボランティアの組織化を図り、間もなく20年を迎えます。その間、様々な大災害に見舞われ、その度に活動内容が拡大してきました。

これまでの被災者支援活動から学んだことは「最大の被災者支援活動は、大災害が発生する前の減災活動が最大効果を生む」、「苦痛・苦悩を最小限にし、復興を早める」、被災時の地域住民の「支援を受ける及び避難所共同生活ルールの共通認識の合意」です。東日本大震災での経験から、被災者の支援状況・実態を実際に目にし、多くのことを得ました。

私達は、南海・東南海トラフの被災予定地域に対し、本音で減災対策を伝え、被災を最小限にとどめる事前準備を進め、2月22日・23日の両日に徳島県・愛媛県・高知県を訪問し、県の担当部局と話をするとともに、沿岸漁港の住民に「減災・防災」の準備状況等を聞いてまいりました。東日本地震・津波の教訓を生かした準備態勢が整っているようですが、被害を受けた後の「受援」のことにに関して不安を感じてきました。

当センターでは、災害ボランティアが現場で能力を発揮できるよう、平常時から準備を整え、関係団体と共に運営を担い、被害を少なくし安全安心な町づくりを、また、万が一被害を受けても最小限の苦痛ですむよう「備え」をしていきます。ご支援をお願いいたします。



未来を担う若者に希望の種をまく

仮認定NPO法人ハーベスト

これから地域社会を担う「主体性を持つ若者」が育つ地域づくりを目指して、キャリア教育のプログラムを県内の高校・中学校に提供しています。

若者が様々な大人に触発される機会を教育現場に組み込むことで、社会を生き抜く力を持った若者が地域社会に輩出され、地域の未来をつくっていく。地域の一人ひとりの響き合いが元気な若者を育て、地域を面白く・楽しくしていく。私達はそんな出会いに溢れた地域を皆さんと一緒につくっていきたいと思っています。

現在、県内の約40校の高校・中学校で、少人数車座型の社会人講話である「キャリアセミナー」を年間50回ほど開催し、受講する生徒の数は約1万人にものぼります。

開催にあたっては、1校あたり30名前後の市民講師陣との連絡や受講人数の調整、当日運営など、この活動を維持するためには、7名のスタッフとその人件費も含めた活動経費として、年間約2,000万円の費用(受講生1名あたり約3,000円程度)が必要になります。

皆さんから寄せられた寄付金は、この活動を支える経費として活用させていただきます。若者達に将来への希望の種をまく活動を応援してください。



どんなに重い障がいがあっても、笑顔で幸せに暮らせる社会を

仮認定NPO法人あいの実

私達は、重い障がいを持つ子ども達とお母さんをサポートする活動をしています。自分で歩くことも食べることも話すこともできない、非常に重い障がいを持った子ども達がいいます。人工呼吸器をつけていたり、のどにタンがつまらないように吸引が常に必要だったりします。

日本の小児医療の発達により、昔であれば失われていたであろう命が救われるようになりました。そのため、重い障がいを持つ子ども達が急増しています。しかし、子ども達をサポートするシステムが不足しており、「救われた命の行き場がない」という悲しい事態が生じています。

私達は、子ども達と家族のために本当に必要な支援とは何かを考え活動してきました。

「どんなに重い障がいがあっても、笑顔で幸せに暮らすことができる」、「どんなに重い障がいを持った子どもがいても家族が未来を思い描ける」社会を目指しています。

重い障がいのある子ども達を預ける施設の設置が急務です。施設の建設には多額の費用が必要となります。

これまで見過ごされていた、重い障がいを持つ子ども達と家族のセーフティーネットの構築に貢献してみませんか。



シニアの皆さんの心豊かなセカンドライフを支える活動を続けるために

仮認定NPO法人仙台シニアネットクラブ

NPO法人仙台シニアネットクラブは、2015年9月17日に仙台市から特定非営利活動促進法58条による「仮認定特定非営利活動法人(以下仮認定NPO法人)」として認定されました。

これは仙台シニアネットクラブが「高い公益性」を持った活動を行っていて、「運営組織及び事業活動が適正で公益の増進に寄与する団体」として、認められたことによるものです。

これもひとえに講座受講の皆様や、事業をご支援・ご協力いただく皆様のお蔭と感謝し、心よりお礼申し上げます。

これからも仙台シニアネットクラブは、高齢者のためのパソコン講座や無料パソコン相談などを通じて、シニアの皆さんの心豊かなセカンドライフを支える活動を続けてまいりますので、皆様に寄付を通じた資金援助をお願いし、活動を支えていただければと希望しています。今回の仮認定によりまして、皆様のご寄付は確定申告で税額控除を受けることができるようになりました。1件あたり3,000円を超える程度をめどとして、貴重なご支援をいただければとお願い申し上げます。



芸術を大人や子どもも、障がいを持つ人も、ない人も

仮認定NPO法人ミューズの夢

芸術は、大人や子ども、障がいを持つ人にも、ない人にも感動と勇気を与えてくれます。

私達「ミューズの夢」は、障がい(ハンディ)を持つ子ども達に、音楽やアートに触れる機会を通して、学校でも家庭でもない、芸術を楽しむ仲間づくりを目指して活動しています。

体で表現できる「芸術」に親しんでもらうため、音楽と創作アートレッスンを行う「芸術サポート教室」の運営や、支援学校への訪問を行っています。

芸術に触れ合ってもらう活動は単発のイベントではなく、継続した活動こそ必要です。

音楽にあわせて体を動かしたり、楽器を使ってアンサンブルをしたり、参加者全員で取り組むことから、だんだんと協調性も生まれていきます。

主な活動にかかる経費は、芸術サポート教室の運営費や、楽器の修繕や購入、訪問の際の交通費、演奏者への謝礼です。

より多くの障がいを持つ子ども達に、充実した芸術に触れ合う機会を提供し、楽しさや生きがいづくりを提供するため、皆様からのご寄付・ご協力をお願いいたします。



認定NPO法人・仮認定NPO法人

掲載一覧

※2016年2月末現在

①認定NPO法人スペシャル オリンピックス日本・宮城

〒980-0014
仙台市青葉区本町3-5-22 宮城県管工事会館9階
TEL:022-711-6835 FAX:022-264-4888
E-mail: info@son-miyagi.jp
振込先:郵便振替
口座番号:02210-0-77676
加入者名:スペシャルオリンピックス日本・宮城

②認定NPO法人Switch

〒983-0852
仙台市宮城野区榴岡1-6-3 東口鳳月ビル602
TEL:022-762-5851 FAX:022-762-5853
E-mail: info@npo-switch.org
振込先:郵便振替
口座番号:02230-5-119122
加入者名:特定非営利活動法人 Switch

③認定NPO法人地球のステージ

〒981-1225 名取市飯野坂1-11-26 (2016.4.1より)
TEL:022-738-9220 FAX:022-383-8330
E-mail: stageone@e-stageone.org
振込先:郵便振替
口座番号:02260-1-87792
加入者名:地球のステージ

④認定NPO法人さわおとの森

〒981-0123 宮城郡利府町沢乙字欠下東18-2
TEL:022-767-4338 FAX:022-767-4347
E-mail: sawaoto@w8.dion.ne.jp
振込先:銀行振替
七十七銀行 七ヶ浜支店
口座番号:普通口座 5271002
口座名義:特定非営利活動法人さわおとの森
理事長 清野精雄

⑤認定NPO法人杜の伝言板ゆるる

〒983-0852
仙台市宮城野区榴岡3-11-6 コーポラス島田B6
TEL:022-791-9323 FAX:022-791-9327
E-mail: npo@yururu.com
振込先:郵便振替
口座番号:02250-0-43800
加入者名:特定非営利活動法人杜の伝言板ゆるる

⑥認定NPO法人ばざーの太白社会事業センター

〒983-0852
仙台市宮城野区榴岡1-7-15サニービル1002号
TEL:022-292-7160 FAX:022-292-7162
E-mail: btswc.webmail@gmail.com
振込先:郵便振替
口座番号:02280-9-93592
加入者名:NPO法人ビートスイッチ

⑦認定NPO法人ロージーベル

〒980-0014
仙台市青葉区本町1-9-5 五城ビル502
アネスティ法律事務所内
TEL:080-1695-4032
E-mail: info@rosybell.jp
振込先:郵便振替
口座番号:02230-4-111714
加入者名:特定非営利活動法人ロージーベル

⑧認定NPO法人あかねグループ

〒984-0823 仙台市若林区遠見塚1-5-35
TEL:022-285-0945 FAX:022-282-4788
E-mail: npoakane@violin.ocn.ne.jp
振込先:銀行振替
七十七銀行 南小泉支店
口座番号:普通口座 9175636
口座名義:特定非営利活動法人あかねグループ
理事長 清水福子

⑨認定NPO法人JETO(ジェット)みやぎ

〒983-0035
仙台市宮城野区日の出町2-5-4 (株) 清月記内
TEL:022-782-0303 FAX:022-783-6116
E-mail: info@jeto-miyagi.org
振込先:郵便振替
口座番号:02250-8-135678
加入者名:特定非営利活動法人 ジェットみやぎ

⑩認定NPO法人グループゆう

〒981-3213 仙台市泉区南中山2-2-3
TEL/FAX:022-376-7665
E-mail: g.yuu@jcom.home.ne.jp
振込先:郵便振替
口座番号:02240-2-116443
加入者名:特定非営利活動法人グループゆう

⑪認定NPO法人冒険あそび場 -せんだい・みやぎネットワーク

〒980-0803
仙台市青葉区国分町3-8-17日東ハイツ202
TEL:022-264-0667 FAX:022-349-5396
E-mail: asobo@coral.plala.or.jp
振込先:銀行振替
七十七銀行 仙台市役所支店
口座番号:普通口座 9071733
口座名義:特定非営利活動法人冒険あそび場
-せんだい・みやぎネットワーク
代表理事 佐藤 慎也

⑫認定NPO法人みやぎ発達障害サポートネット

〒980-0013 仙台市青葉区花京院1-4-1
TEL:022-265-5581 FAX:022-352-7088
E-mail: mddsn@yaho.co.jp
振込先:銀行振替
七十七銀行 名掛丁支店
口座番号:普通口座 9169687
口座名義:特定非営利活動法人
みやぎ発達障害サポートネット

⑬仮認定NPO法人麦の会

〒983-0834 仙台市宮城野区松岡町17-1
TEL/FAX:022-299-1279
E-mail: muginokai@k5.dion.ne.jp
振込先:郵便振替
口座番号:02200-8-46178
加入者名:特定非営利活動法人 麦の会

⑭認定NPO法人地星社

〒989-2432 岩沼市中央4-8-77
TEL:080-3337-6490
E-mail: office@chiseisha.org
振込先:銀行振替
ゆうちょ銀行 二二九店
口座番号:当座0112957
口座名義:特定非営利活動法人 地星社

⑮認定NPO法人みやぎ災害救援 ボランティアセンター

〒984-0015 仙台市若林区卸町5-3-6
TEL:022-783-1230 FAX:022-781-5303
E-mail: info@m-drc.org
振込先:郵便振替
口座番号:02270-7-044720
加入者名:特定非営利活動法人
みやぎ災害救援ボランティアセンター

⑯仮認定NPO法人ハーベスト

〒980-0014
仙台市青葉区本町2-10-33
第二日本オフィスビル9階
TEL:022-395-4311 FAX:022-395-6432
E-mail: info@heartbest.net
振込先:銀行振替
七十七銀行 本店営業部
口座番号:普通口座 7850638
口座名義:特定非営利活動法人 ハーベスト
代表理事 山崎賢治

⑰仮認定NPO法人あいの実

〒981-3217
仙台市泉区実沢中山北100-2
TEL:022-346-1730 FAX:022-346-1731
E-mail: info@ainomi.com
振込先:銀行振替
七十七銀行 泉パークタウン支店
口座番号:普通口座 5360757
口座名義:NPOあいの実 理事長 乾祐子

⑱仮認定NPO法人仙台シニアネットクラブ

〒980-0821 仙台市春日町6-1 白鳥ビル213号室
TEL:022-395-7921
E-mail: ssnc01@ybb.ne.jp
振込先:郵便振替
口座番号:02260-2-120407
加入者名:特定非営利活動法人仙台シニアネットクラブ

⑲仮認定NPO法人ミュージズの夢

〒980-0821 仙台市青葉区春日町7-19 6階
TEL/FAX:022-267-9540
E-mail: info@musenoyume.jp
振込先:郵便振替
口座番号:02220-2-66052
加入者名:NPO法人 ミューズの夢